

新音楽夜 嘸

第80夜 特別記念イベント

'13. 10.12(土)

@ 下北沢 Com.Cafe 音倉

開場=17:30 開演=18:00

予約=3,500円<w/ Idrink> (当日 4,000円<w/ Idrink>)

www.ongakuyobanashi.jp/

きっとエチオピアは日本と繋がっている!!



junkoYAMAMOTO

【第1部】トーク=「世界に羽ばたくエチオピアの音楽職能者」

論者=川瀬慈 (国立民族学博物館助教)

聞き手=荻原和也 (音楽評論家、「ポップ・アフリカ700」著者)



kazuyaOGIWARA

【第2部】ダンス・パフォーマンス=モカ・エチオピア・ダンスグループ

【第3部】ライブ=Ky

企画・進行=関口義人 (「音楽夜嘸」主宰)



itsumichiKAWASE



KY



東アフリカ、エチオピアで代々音楽を受け継いできた、それぞれアズマリ、ラリベロッチと呼ばれる2つの職能者の集団とその魅力について、長くこれらの集団について研究し、ともに生活してきた国立民族学博物館の研究者、川瀬慈さんによる解説でご紹介します。特に地域社会の儀礼、生業、娯楽の場における、彼らの音楽の特徴、役割や、エチオピアのポピュラー音楽シーンでの彼らの活躍、また近年話題のエチオジャズとこれらの集団の音楽の融合や音楽家たちの素顔など、映像と音楽でご紹介します。聞き手は「ポップ・アフリカ700」の著者、荻原和也さんです。

第80夜 '13.10.12(土) @ 下北沢音倉

開場=17:30 開演=18:00 / 予約=3,500円 (w/1d) (当日 4,000円 (w/1d))

きっとエチオピアは日本と繋がっている!!

【第1部】トーク=「世界に羽ばたくエチオピアの音楽職能者」

論者=川瀬 慈 (国立民族学博物館助教)

聞き手=萩原和也 (音楽評論家、「ポップアフリカ700」著者)

司会=関口 義人 (「音楽夜囃」主宰)



itzushi KAWASE

【第2部】ダンス・パフォーマンス=モカ・エチオピア・ダンスグループ

【第3部】ライブ=Ky (キィ)



パリ市音楽院ジャズ科の同窓生、仲野麻紀 (サクソ) とヤン・ピタール (ウード) によるユニット。自然発生的な即興演奏を軸に、エリック・サティの楽曲に民族楽器を取り入れ自由自在にヨーロッパ、中東地域、アフリカ、アメリカ、日本で演奏中。2013年秋、モロッコはスーフィーの楽士との演奏をアラブ世界研究所にて演奏予定。そして日本公演の機会を捉えて『音楽夜囃』にゲスト出演していただきます。今回はエチオピアの“イメージ”を膨らませつつ現代のアフリカ音楽を再構築します。

仲野麻紀 (sax.metale-clarinet,nay)

2002年渡仏。パリ市コンセルバトワールJazz科卒業。サウンドペインティングをフランソワ・メーヴィルに師事。沖至、ドニーク・ラズロ、マル・ウォルドロン等とヨーロッパで共演。2005年Banlieu Bluesフェスティバル出演を機に、マリ、ブルキナヘザリパラフォニスト、Moussa Hema等アフリカミュージシャンとのプロジェクトを開始。2006年から毎年日本でツアー。openmusicを主宰し、海外の演奏・音楽研究家を日本に招聘。2013年秋に8人からなるブルキナファソの楽士を招聘。

Yann Pittard (oud.baritonguitare,fx)

1983年パリ生まれ、ブルターニュで育つ。10歳からギターを始める。17歳でバカロレアを取得し、インドへ渡り、ドタラをベンガルの吟遊詩人 Nimal chan Baulに習う。2004年パリ市コンセルバトワールジャズ科にて編曲、オーケストレーション、ギターを修了。その後エジプトに渡りウードをアブドゥッハールに師事。2009年シリア人フルーティスト Naissam Jalal と「Aux Resistances」を発表し、レバノン、シリアツアーを成功させ、現地では新しいアラブ音楽の解釈が注目を浴びる。

〒155-0031 東京都世田谷区北沢 2-26-23 日 NIU B1F
(NTTドコモが1Fに入っているビルの地下)
京王線・小田急線 下北沢駅 北口・西口 1より徒歩2分
Tel&Fax: 03-6751-1311 www.otokura.jp/



karuya OGIWARA

junko YAMAMOTO



yoakusei KIGUCHI



山本純子 (Adeyabeba)

モカ・エチオピア・ダンスグループ 代表 / 一般社団法人日本エチオピア協会 理事 / ンゴマ・ジャパニ 常務理事 / 2003年、演歌のような不思議なエチオピア音楽に熱狂し、エチオピア民族舞踊の世界に足を踏み入れる。エチオピア国立劇場に入門し、トレーニングプログラムに参加。2011年、同劇場のクリスマス特別公演にゲスト出演を果たす。2005年より、在日本エチオピア大使館とともにダンスを通じて日本にエチオピアの文化を紹介するモカ・エチオピア・ダンスグループ代表。舞台やイベントでエチオピアダンスの群舞を披露する傍ら、ネットを通じて最新のエチオピア情報を発信し続ける自称エチオピアン・カルチャー・ウォッチャー。

第81夜 11.16(土)

独自の進化を遂げた
スペインのケルト文化、ガリシア音楽を聴く

論者=高橋めぐみ (アオラ・コーポレーション、ガリシア音楽愛好家)

聞き手=萩原睦美 (スペイン料理シェフ)

第82夜 12.14(土) イラン音楽 (タイトル未定)

論者=北川修一 (イラン在住、ラジオ日本新編訳・音楽・番組制作担当ディレクター)

聞き手=谷 正人 (神戸大学大学院人間発達環境学研究所 准教授)

スペイン北西部に位置し、カトリックの三大聖地のひとつサンティアゴ・デ・コンポステラを擁するガリシア地方と隣県のアストゥリアス地方はケルト文化圏として知られている。サンティアゴへの巡礼は日本でも多少の知名度はあるものの、ガリシアを訪れる日本人は多くはない。しかし、ガリシアは音楽と美食に満たされた素晴らしいところ！ケルトを代表するアイルランドやスコットランドとは違う道のりを歩んできた音楽の変遷を軸に、美食談義を挟みつつガリシア音楽の魅力を伝える。フラメンコやバルセロナのミクスチャーだけがスペイン音楽ではない。そして、お馴染みのカルロス・ヌニェスだけがガリシア音楽じゃない！